

Letter from Tsuruno Meguro to Fumio Fred and Yoneko Takano, [August 17-20, 1942]

二三男米子さん 元気ですか。

私達五百人以上の人々皆元気で一夜過ぎました。きのうは昼から暑くお湯の中にでも居るような心地しました。昼は三時でした。夕方にゴミ風が吹きました。くらくらしてやっといくらか涼しくなりました。山をのぼりますので汽車は歩くようにシロー。昼からは見わたすかぎり野原で家はなし。町はいくらもありません。よね子や、私達今アリゾナ通っています。コロラドも通りますよ。

夕べはよくねて居りますとヨシ子、リヨト、ミサ子、友達ミヨ子さんと、2人ずつねてまして、夜中にクスクス笑うので目がさめました。人のハナエビキきこえて笑うのですよ。それから私の足をつつくから目を覚ましてみますと男の人が自分のプレシとまちがえたのでしょう。ちがいますよと私がいいますと、また笑うのですよ。朝は寒い汽車の中へはいしていむがまわっています。とても気持ちいいですよ。サンは出まして山も野も青々と生えています。

よね子や、私達コロラドから来た道を通って居りますのよ。松の木がどこまでも青々となんともいいようのない美しさですよ。今まだアリゾナ通っています。御馳走になり、こんな長い事汽車へ乗せられて、りょこうさせて戴き、ほんとうに、有難と思います。汽車の中でゆれてなかなか書けません。

きのう昼、ハンバーグマルヤキ、ポテト、コン、フルーツ、オレンジニツ、夜、ターキ、ピー、ポテト、シペゲラ（スパゲティー？）、ライス、アイスクリーム。十八日朝フルーツジュシ（フルーツジュース）、ハモイッグス（ハムエッグス）、トースト、コーヒー。

着きましたらまた書きます。ママ
(コロラドドコ通るかまだわかりませんがそれでも通ると思うとうれしいですよ)

[In the train]